

太田市自分ごと化会議 2022

第2回会議 議事概要

日時	2022年12月11日(日) 13時~16時
場所	太田市役所 3階 大会議室
コーディネーター	千葉県市原市 企画部長 高澤 良英

コ：コーディネーター、委：委員、市：市職員

議事概要

■前回会議の振り返り

自分ごと化会議の意義や、危機管理室からの説明の振り返りと、事前・事後アンケート結果の確認を行った。

【以下、振り返りの概要】

- ・無作為で集まった人が行政の課題を「自分ごと」として話し合う。防災をテーマに、何に困っているか、その困りごとに対して自分や地域、行政でできることは何かというのを話し合っていく。みんな(公)のことを他人事のままにしておく、そのツケは自分に帰ってくる。だから、自分のこととして考えていく必要がある。
- ・危機管理室から、「自助」「共助」が大切という話があった。阪神淡路大震災では8割近くの人が近所の人に助けをもらい、自衛隊や市などに助けられた人は2割ほど。大災害時は市役所も被災し助けに行けない。自分や地域で備えないといけない。
- ・事前アンケート結果。市の情報を広報紙やHPでよく見ている人は0。情報をそこにだけ載せてもなかなか伝わらない。また、自然災害に対して大きな不安を感じている人や、太田市が災害に対して危険だと考えている人も少ない。市原市もこれまで災害があまり無かったが、立て続けに災害が起こり大きな被害を受けた。安全なところだと思って災害を自分ごと化していないと、いざという時に対処できない。

■防災マップ・避難所マップから災害リスクを考える

少人数グループに分かれて、災害リスクの洗い出しを行い、洗い出したリスクや課題の中から1つを選んで、「自助」「共助」「公助」それぞれの視点から何ができるのか「課題を解決する方法」を話し合っ整理した。また、各自で提案シートへの記入を行った。

◀リスクの抽出・整理▶

【以下、各班から挙げられたリスク(抜粋)】

- ・高齢者や言葉の通じない外国人の避難をどうしたらいいかわからない
- ・避難所の詳細がわからない(収容人数、駐車場、防犯、プライバシー対策等)
- ・災害情報が、必要な人に伝わっていない(外国人向けの避難マニュアル等)。防災無線は全市をカバーしていない、ラジオを持っていない。
- ・外出時に災害にあった時どう行動すればいいかわからない

- ・避難方法がわからない（車で？歩きで？どっちが安全？）
- ・避難をしないとイケないのか判断ができず迷ってしまう
- ・ハザードマップがわかりにくい（小学生でもわかるようなものにならないか）
- ・災害時に誰が避難所の鍵を開ける？（周辺住民にどうやって役割を持ってもらうか）
- ・外国人避難者のストレス対策をどうするか（不慣れな日本での避難所生活への対策）
- ・外国人住民向けの防災マップなどがどこで見られるのかわからない（HPに掲載されていたり、市の施設に置いてあることが伝わっていない）

《対応策の検討・整理》

【以下、各班が整理した「課題を解決する方法」（抜粋）】

【1班】《リスクや課題：避難方法について》

- 自 ・市の防災メールに登録する ・防災グッズを用意しておく
- 共 ・日頃から近所付き合いをして、いざという時に声かけできるようにしておく
- 公 ・高齢者をサポートできるようにしておく ・災害時の役割を地区で決めておく

【2班】《リスクや課題：防災情報の伝え方・伝わり方》

- 自 ・興味関心を持って、自分から情報を探していく
- 共 ・所属する団体やコミュニティで防災について、危機感・リアルさを持って考える
- 公 ・自らのコミュニティだけでなく、他コミュニティにも防災のことを伝えていく
- 公 ・防災について考える場、対話の場をつくる

【3班】《リスクや課題：避難所について》

- 自 ・家族で具体的に話し合う。例えば、平日に発生したとき、夜に発生したとき、連絡方法など。
- 共 ・隣近所の人と話す・相談する
- 公 ・福祉避難所の設置

■次回会議に向けて

コ 情報の伝え方や伝わり方。行政側としては伝えていると思っていることでも、市民に伝わっていないこともある。災害があった時に一人でも多くの太田市民が助かるために、防災に対する意識を変えてもらうきっかけをどうすれば作れるのか、見方や視点を変えながら考えていきたい。

市 次回は1月21日(土)の13時から。引き続きよろしくお願ひしたい。